

「ガザ侵攻」が意味するもの



5月10日から21日までの11日間、イスラエルからの「ガザ地区軍事侵攻」が行われました。その結果、犠牲者248名(うち子供66名、女性39名)、負傷者1400名以上に及び、また住宅破壊1000棟、使用不能1800棟、水道使用不可80万人、避難10万人となっています。

まず、この「ガザ侵攻」に至った経過を今一度確認しておきましょう。

1967年の第3次中東戦争以来、イスラエルは、ヨルダン川西岸と東エルサレムを占領し、「入植地」建設でパレスチナ人の土地を取り上げ、人権弾圧を繰り返してきました。それに代わって2005年以来ガザ地区を「完全封鎖」下においてきました。

どれも国際法違反を指摘されていますが、アメリカ、特にトランプ前米政権に後押しされたイスラエルによって続けられているものです。

そうした中であって、イスラエルは、東エルサレムの「ユダヤ化」を狙い、そこに暮らすパレスチナ人の家屋の破壊や土地取り上げを強行してきました。

その象徴的なことが東エルサレムで旧市街の近くにあるシェイクジャラ地区(人口約500名)です。連日、土地取り上げに抗議するパレスチナ人と連帯するイスラエル人に対して軍と警察による弾圧が続けられていました。

私達は、2011年以降13次にわたる現地での「医療・こども支援活動」の際、毎週金日の午後にはここで行われてきた国際的な抗議行動にも参加し、時には日本語/英語でのメッセージボードも掲げてきました。

一方、イスラム教の大切な宗教行事であるラマダンの期間に、イスラム教の聖地であるエルサレム旧市街内のアルアクサモスクにイスラエル兵が乱入し、イスラム教徒の心を踏みにじりました。

こうした事態にあたり、ガザ地区から抗議の声と共に、実力行使が行われ、それへの「報復」と

してイスラエルによるガザ空爆が開始されたのが 2021 年 5 月 10 日でした。ガザ地区とイスラエル間の軍事的応酬において双方の非対称性は明白であります。ことあるごとに繰り返されるイスラエルによる「ガザ侵攻」は、ガザ地区をいよいよ人が住めない土地にする＝ジェノサイド政策の一環でもあります。

イスラエルを支持・激励する日本政府

5 月 20 日(木)に私達の主催で、『パレスチナに自由を求め、山中防衛副大臣の発言撤回を要求する緊急 ON-LINE 集会』が国内外から 140 名以上の出席で行われました。中山氏の「……私達の心はイスラエルと共にあります」との発信は、日本政府が軍事的侵略国であるイスラエルを支持・激励するものであり、ガザ住民の虐殺を支援する結果となっています。私達を含む多方面からの批判により、そのツイッターは最近削除されていましたが、中山氏をはじめ政府への批判は避けられません。



この ON-LINE 集会では、ガザ地区から国連パレスチナ難民救済機関(UNRWA)でガザ住民のために身をもって尽力している吉田美紀さん、東エルサレム・シュファット難民キャンプから診療所医師のサリム先生から現地の様子をお話していただきました。その内容を You Tube にアップしましたので是非ご覧ください。

<https://youtu.be/fEsS2vIWkaY>

ガザ住民に「安全な場所はない」

その後、5 月 21 日にガザ地区のハマス政権とイスラエルの間で「停戦合意」が図られ、とりあえずイスラエルによる「ガザ軍事侵攻」が止まったことに、私達はつかの間の「安堵」をえているところですが。

しかし、これでもイスラエルの植民地政策による 14 年間も続く「ガザ封鎖」や西岸での軍事支配、東エルサレムでの「入植地拡大」などの根本問題が解決したわけでは全くありません。むしろイスラエル国内の右傾化の進行で、その植民地政策が一層強化されてゆくものと思われます。

今回の「ガザ地区侵攻」は、私達自身がこれまで現地で 2 度体験したミサイル攻撃とは明らかに

異なるものでした。

それは、14 年以上の「ガザ封鎖」に加えて、新型コロナウイルス感染下での軍事攻撃です。新型コロナへの全人口のワクチン接種率は、イスラエルは 63%に比べガザ地区は 5.5%に過ぎない状況なのです。事実、空爆により、私達がガザ地区での医療活動の中心としているリマールクリニックに隣接するコロナ感染対応施設までもが破壊され、2名の医師が命を落しました。

空爆の初期の段階からガザの高層ビルに攻撃を加えて、ガザ住民に「安全な場所はない」との恐怖心を与えたことです。ガザ地区の象徴的建造物が破壊されるのを目の当たりにしたガザの人々の心の中に複合性 PTSD を深く刻み込みました。今後のガザ地区住民に負わされる心理的負担は計り知れません。現地からのお話しでは、特に子供や若者たちへの心理的被害の大きいことが報告されています。

今回は、AP 通信やアルジャジーラなど国際的にも有力なメディアが入るビルが完全に破壊されたことです。これまでの空爆では、ガザの地元メディアのビルが破壊されたことはありました。しかし、今回は、ガザで起きていることの真実を世界に発信することを不可能にするイスラエルの卑劣な侵攻のやり方でした。「決して、メディアでも安全ではない」とのイスラエル軍からのメッセージと受け取らざるを得ません。

イスラエルが使用したミサイルの中には、バンカーバスター爆弾が使われた可能性があります。それは地下 20~30m にまで撃ち込まれて地下で爆発し、地下施設や地上のビルを崩壊させるものです。住民の感じる地面の振動は大地震と受け取られるものであり、それに続くビルの崩壊や道路の陥没などは、それまでにないものでした。以前、私達が体験したミサイル攻撃下のガザでは 建築物の破壊は地上だけのものでした。



この結果、ガザ地区内の

道路そのものも破壊され陥没をきたし、救急患者さんを病院へ搬送する救急車の進行が大きく妨害を受けています。その結果、「助かる命も助からない」状況が作られました。

また、4万人以上の住民が国連 UNRWA の運営する学校へ避難しましたが、その学校や周囲の病院までもが破壊の対象になっていたのです。こうした病院や学校が破壊されること自体、ガ

ザの住民の健康を守る権利や子供たちの学ぶ権利など、『人権と人間の尊厳』を否定するものなのです。

また、避難先での住民の密集・密接は、新型コロナ感染を予防するうえで大きな障害をきたしています。

これらからわかることは、イスラエルが 14 年間以上も『完全封鎖』されているガザ地区(世界最大の天井のない監獄)におけるジェノサイド政策をより一層推し進めていることです。

急がれるパレスチナへの支援・連帯

以上がイスラエルによる今回の「ガザ侵攻」の特徴ですが、「停戦合意」が結ばれたとしても前記した「パレスチナ～イスラエル問題」の本質と実態は、全く解決するどころか、「ガザ封鎖」や西岸・東エルサレムでの「軍事支配」は、一層強化されているのが現実です。

今後の課題として、破壊された「ガザ地区」インフラの再建、傷ついた負傷者への手厚い治療、そしてガザ住民への精神心理学的なケアの充実に力を注がなければなりません。同時に、新型コロナ感染がすでに 107,845 名、死者も 1010 名に達している(5 月 24 日現在)もとで、破壊された医療施設の再建と感染の予防・治療が急がれているのです。

これからも パレスチナへの「医療・こども支援」をいっそう強化し、イスラエルに対して、「パレスチナへ自由を」「ガザの封鎖を解除せよ」「植民地政策をやめよ」「西岸・東エルサレムでの入植地から撤退せよ」「パレスチナ人の虐殺をやめよ」を求める声を地域から、国内外へ広げてゆくことに尽力する所存です。そして、『人間の尊厳を守る』を共通のスローガンとして、AALA の諸闘争と連帯してゆきたいと考えています。

皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。 (了)

(写真、先の2枚は私の友人、ガザ地区の若手ジャーナリスト Sameh Ahmed En 氏から送られたものです)